

令和5年度学校評価書

兼 第3回議事録

岡山県立津山東高等学校
校長 安東 幸信

1 自己評価

I 評価結果

(別紙参照)

II 分析・改善方策

- ・ 学校自己評価アンケートにおける保護者に対する全質問項目のうち、「子どもを津山東高校に入学させてよかったと感じている」の項目に対する肯定的評価の回答率が最も高かった(85%)。行学や課題研究等における探究活動、生徒会活動、部活動など、生徒が主体となる場面があり、本校教育に対する生徒や保護者の満足度が高いことが伺えた。多くの項目において「よくあてはまる」「あてはまる」の割合が高く全体的に良好である。
- ・ 生徒に対する全質問項目のうち「授業や部活動・学校行事などで、自分の考えをまとめたり、発表したりする機会がある」及び「教員は、授業の計画、授業展開の工夫をしている。」の項目に対する肯定的評価の回答率が最も高かった(85%)。本校教育の特徴である主体的な学習、「行学」での地域課題解決型の地域をフィールドにした探究学習、発表会などに対する生徒の満足度が高いことが伺えた。また、互いの授業を参観し合うなどの研修に力を入れて授業改善に取り組んだ成果であり、一人一台端末を活用した授業展開が積極的に行われている結果であると分析している。
- ・ 学校自己評価アンケートにおける保護者、生徒とも、「学校からの文書配付やメール等での諸連絡は適切に行われている」の項目に対する肯定的評価の回答率が高かった(どちらも83%)。タイムリーな文書配付や、googleclassroomや39mailからのデジタル配信を活用することで、情報やメッセージ等を丁寧に発信してきたことが良好な評価につながった面があるものと分析している。
- ・ 「行学や体験活動により、社会と接点を持ち、課題発見解決力が身に付いてきている」の項目に対する肯定的評価が保護者・生徒ともに高い。総合的な探究の時間「行学」や学校設定教科「地域創生学」、専門学科における校外実習など、本校教育の柱であるPBLの満足度が高いと分析している。
- ・ 「校内の施設・設備は、学校生活がしやすいように充実している」の項目に対する保護者・生徒の肯定的評価がやや低い。自由記述にはエアコンの効きや洋式トイレの少なさについての指摘があった。令和4年度以降、予算がつき次第順次トイレの洋式化工事を進めている。また、エアコンについては、令和5年度、ほぼすべての教室で最新機種への入れ替えをおこなった。

2 学校関係者評価委員名 (五十音順)

安東 幸信 (岡山県立津山東高等学校長) 市場 隆 (津山市医師会理事)
笠尾 美樹 (津山市企画財政部みらいビジョン戦略室長)
門長 儀紘 (㈲ラビット代表取締役) 河村 由起子 (本校PTA会長)
高橋 英資 (㈱マルイ総務人事部次長) 三村 文恵 (林田宮川町内会員)
三村 雅彦 (NPO法人みんなの集落研究所研究員)
森 泰久 (津山市教育委員会企画参事) 安田 純 (美作大学生生活科学部教授)

3 学校関係者評価

- ・ 食物調理科の卒業制作展示発表会を見学した。これだけ質の高い作品を仕上げる努力の過程で、自己肯定感が育まれているのではと感じた。
 - ・ コロナ禍で学校行事や部活動など、中学校時代に最も制限を受けてきた学年となっている。学校行事や部活動など、活動状況が戻りつつあるようだが、人との関わりを多く持つことでコミュニケーション力の向上など、積極的な教育活動をお願いしたい。
 - ・ オープンスクールに参加する中学生も多く、津山東高校は中学生から人気が高い。学校紹介動画やブログ等の更新も頻繁に行われており、中学生も注目している。今後も中学生に東高校の魅力を十分伝えて欲しい。
 - ・ 地域連携コーディネーターとして生徒に関わっている。行学では、高校生の視点で地域の課題解決のための事業やイベントを実施している。地域の皆さんも同じような視点を持っていただいているため、両方にとって効果的な内容になっている。計画通りにできなかったことや改善点など、生徒自身が振り返ることで成長できている。
 - ・ 多彩な教育活動をホームページ等を利用して積極的に発信していることは評価できる。中学生や生徒のみにとどまらず、卒業生や卒業生の保護者からもホームページに関する話題をよく聞く。多くの方が、楽しみにしている状況である。また、新聞を始め、東高校の取り組みがマスコミに良く取り上げられている。近隣の高校と比べて最も多いのではないか。
 - ・ 津山市の人口流出が続いており、東高の卒業生にはできるだけ津山に留まってほしいと願っている。普通科では大学進学、食物調理科や看護専攻科の生徒は、都会や県南の施設で経験を積むことも大切であるが、将来的には地元に戻り、県外で得た経験を活かしてもらいたい。
- 「令和5年度の具体的な学校経営目標・計画」各項目に対する評価（ABC）
- 1 志望進路実現のための、主体的・対話的で深い学びによる資質・能力の育成 → 【B】
 - 2 健やかな心身の育成と人間力の向上 → 【A】
 - 3 安全安心で快適な学校生活のための施策の推進 → 【B】
 - 4 学校の魅力化と情報発信（開かれた学校づくり） → 【A】

4 来年度の重点取組（「令和6年度学校経営計画書」より）

- 1 主体的・対話的で深い学びによる資質・能力の育成
 - (1) 新学習指導要領に基づく教育活動の整備（授業・学習評価の改善等）
 - (2) 模試結果・出題傾向分析等の根拠に基づいた教科指導による確かな学力の育成
 - (3) 資質・能力の向上を目的としたICT・デジタル機器活用の研究と実践
 - (4) 各教科、特別活動、「行学」、四校連携等による地域活動を重視したキャリア教育の充実

- 2 健やかな心身の育成と人間力の向上
 - (1) 自ら進んで気持ちの良い挨拶ができる生徒の育成
 - (2) 生徒同士が互いに支え合い高め合える集団づくりの推進
 - (3) 特別活動、部活動、ボランティア活動への生徒の主体的な取組の推進

- 3 安全安心で快適な学校づくりのための施策の推進
 - (1) 教育相談体制の充実やアセスメントの活用等による生徒の悩みへの適切な対応
 - (2) 交通や防災等についての安全意識やモラルの育成
 - (3) ペーパーレス化やIT等、業務の効率化による働き方改革の推進

- 4 学校の魅力化と情報発信（開かれた学校づくり）
 - (1) おかやま高校生地域未来創造事業等を通じた地域との連携
 - (2) 姉妹校との国際交流、短期留学等を通じた国際性豊かな学校づくり
 - (3) ホームページやオープンスクールの改善等による生徒募集活動の充実

第3回欠席者（委員）高橋・三村雅・森（学校）福島